ずいそう

人生２度目の挑戦？

田　村　末　次

昭和10年の早生まれで当年72歳の年男です。猪突猛進とか勝手な言葉をならべて如何にも十二支の中では逞しい様に見受けられますが，所詮12番目の猪です。

現在,夫婦健在で6年先の金婚式を目差しています。

人生2通りあって一方は「自分の歩んだ人生を反省して再挑戦してみること」，もう一方は「歩んだ人生の身体治療の不十分さに後悔していること」があると思います。

このことは，程よい歳に成り人生の終わりが近づいているからではなく，自信を持っていた体力の衰えを実感的に悟ったからであります。

身体故障の始まりは1977年5月，長男の運動会応援に行くときにツッカケで小走りに出掛けた時に左足の踝を捻挫，後で治療をするよう妻からくどく注意されましたが，若さゆえに治療を軽率にしたことが先に禍根を残す第一歩となり，その後少々の段差でも度々捏ねくるようになり今では冬場の寒さに神経痛の様に脅かされる状態が起っています。

1990年10月に自動車が運転ミスから側溝に脱輪しました。通行者の協力により持ち上げることが出来ましたが，この時に腰を落とし十分に構えて持ち上げなかったのが原因で腰痛となり，夜も寝辛く好きなゴルフが出来ず，歩行距離は30 m程度で，治療のため整形外科と整体治療に3回／週，6ヶ月通い秋からプレイが可能となりフィールドに立った時の喜びはひとしおでした。

1997年8月に会社の上司（山梨県出身）が富士山で飲んだ焼酎の水割りは格別であったという一言で登山を決意し夫婦で登頂，ご来光は完全ではありませんが雰囲気を味わいました。日本一の山を征服した気分は生涯忘れられません。

2000年2月にリンパ節に異常を発見，耳下腺炎によるリンパ節ではないかという診断で様子を看ることになりました。2年が経過しリンパ節の大きさが倍になり，リンパ腫であれば癌であることから血液に詳しい日赤回しになりました。

2000年4月日赤で種々の検査を受けた結果，キャスルマン病と判定（1972年米国で認定ビールスが原因による腫脹で奇病），日本では200名程度の患者が存在，広島では5～6名程度で奇病であると説明を受けました。

併せて，胃潰瘍寸前でもありヘリコバクターピロリ菌が原因ではないかと検査したところ，陽性であることから駆除薬を飲み退治し現在は陰性に転化しています。ピロリ菌は大方の人間体内に存在しており，体力が弱ると繁殖し胃を蝕む悪い細菌です。爾来8年間，消化器内科で胃カメラ検査を4回／年程度実施してきましたが，現在は2回／年になり異常なく生活しています。

また，2004年11月体力の衰えから帯状疱疹（ヘルペス）にかかり5ヶ月間通院しました。幼年期に水疱瘡にかかると細菌が体内に残存し，体力が減退した時期に細菌が繁殖し症状として人体に疱疹が帯状に出現，痛みを伴い入院せざるを得ない人，そうでない人，また目や顔に出現する等悪い奴です。特に初期の神経の痛みは注意信号，私の痛みは軽い方でしたが疱疹が潰れて重度は最上級でしたから，記念に症状の変化をカメラに収めています。

以上の経緯から，健康な身体の存在がどれほど人間生存に執って必要であるかを改めて痛感しているところであります。

日本の経済は景気が回復基調にあるとはいえ，少子高齢化が進み，2025年には子ども2人が1人の高齢者を看る計算が言われており，医学が進歩しガン，心臓病，脳卒中等の治療成績が向上し延命に大きく寄与しています。

最近の厚労省発表によりますと，日本人の平均寿命は世界一で女性が85.8歳，男性79.0歳ですが，その反面医療費の負担が増加しております。

お互い歳をとっても健康で介護の世話になることなく自由奔放に生活出来，身体の自由が利かなくなれば人生にピリオドを打つことが出来るように，夫婦が若い時から健康に心掛け将来を見据えた生活を送ることが経験を通した知恵であり，肝要かつ重要な課題であると思うところであります。

――たむら　すえつぐ　アイサワ工業㈱広島支店次長――